

# きらり通信 Vol.4

神奈川県立子ども自立生活支援センター  
平塚市片岡991-1 TEL.0463-56-0303  
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/g2n/2018kirari2.html>  
編集 広報委員会 印刷 (株)あしがら印刷

## ～地域の皆様とともに～

子ども自立生活支援センター 所長 小島 厚



きらり屋上からの風景

今年4月に子ども自立生活支援センター「きらり」の所長に着任しました小島と申します。どうぞよろしくお願い致します。

「きらり」へ初めて出勤した日、同じバスに乗った職員とともに片岡のバス停で下車し、まもなく丘を登っていくと、左手に湘南平、右手に大山、さらにはその横に雪化粧した壮大な富士山が私たちを出迎えてくれました。そして、私たちと道ですれ違った地域の皆様からも「おはようございます」のことばと笑顔で迎え入れていただきました。

私は平成27年度と28年度の2年間、県庁で、当時「児童自立支援拠点」と称していたこの子ども自立生活支援センターの開設準備をしていましたので、周辺地域の住民説明会に何度かお邪魔し、お話しさせていただく機会がありました。多くの皆様から不安や期待をお寄せいただいたところでしたが、これからを担う子どもたちのために、という思いを一生懸命お伝えさせていただいたことを今でも鮮明に覚えています。こうしたこともあって、この地域にはいろいろな思い出があります。

着任後も、4月末にこの地域で開催されている「わかば祭り」にご招待いただきました。昔からこの地域は福祉、教育そして文化に対して非常に力を注ぎ、現在はエコミュージアム活動を通して、地域のふれあいを大切にしているとのことでした。また、5月3日に行われた地域の神

社のお祭りの様子を拝見し、住民のつながりをとても大切にしている地域であることを感じました。「きらり」は開設から2年が経過しましたが、改めて地域の皆様に支えられていることを実感するとともに、今後も地域に根付いた施設として継続させていくことの大切さを感じているところです。

こちらに異動する前の2年間、私は、平塚児童相談所に勤務していました。ほぼ毎日、児童虐待に係る相談や通報が複数寄せられ、多くの子どもたちが助けを求めていました。中には、速やかに保護して安心・安全を取り戻す必要がある子どもも少なくありませんでした。子どもたちの中には、大人への不信のためか、なかなか心を開こうとしない子どももいました。幸い平塚児童相談所は、地域の自治会の皆様方から、一時保護している子どもたちを地域のお祭りに誘っていただいたり、様々な寄付をしていただけたため、そうした場面に接した子どもたちは、皆笑顔を取り戻してくれました。自分の周りに優しくしてくれる大人がたくさんいること、そして気遣ってくれて、支えてくれているということを感じ取ってくれたことと感じています。

最近の子どもの虐待をめぐる報道においては、悲惨な事件が起きても、子どもの叫びが地域の中で気づかれずにいた、ということ度を度々耳にします。子どもたちは住民がしっかりとつながっている地域の中で健全に育つものと確信しています。私たちは、このように素晴らしい地域の中で歩みだすことができたことをとても光栄に思うとともに、私たちの活動が、地域の皆様に貢献することができるよう日々努力してまいりたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願い致します。



# ゴリラのぬいぐるみとの出会い

子ども第二課 職員のつぶやき

A君はきりりから地域の小学校に通う4年生の男の子です。4月下旬、A君は通学路のごみ捨て場に、回収されずにそのまま置かれている大きなゴリラのぬいぐるみを見つけました。そのゴリラは、通りすぎる子どもたちから何度も叩かれていました。その様子を見たA君は「叩くのはかわいそう」と言って、ゴリラの頭を撫でてから歩き出しました。

そのうち、ゴリラがある子どもに投げられたり蹴られたりしていることに気づいたA君は「僕が助けてあげたい」とつぶやきました。後からやってくる子どもたちに次から次へとじめられているゴリラの様子をA君と一緒に立ち止まって見ていた私は、ゴミ置き場から持ち出すことにためらいはありましたが、彼の気持ちを汲んで「助けたいなら自分で行かない」と、声をかけると、A君は「少し待ってて」と照れ臭そうにしながら、子どもたちの下校が途絶えたところで、自分とあまり変わらない大きさのゴリラを抱えて歩き出しました。途中、すれ違う子どもたちから「あれ持って帰るんだ」「持って帰ってどうするんだろ」と言われましたが、その声には耳を傾けず、一心不乱に歩を進めました。途中「重い、代わって」ということもなく、自分の力できりりまで持ち帰りました。私は「外に捨てられていたものだから、洗ってあげないといけないね」と伝え、とりあえず、洗濯機に…。大き過ぎて入るわけもなく、お風呂場で洗い流すことにしました。A君が一生懸命にきれいにし、濡れて重くなったゴリラをタオルに載せて乾燥室まで運びました。「僕が大事にしてあげるの。ずっと一緒にいてあげるんだよ」と笑顔で言っていたのが印象的でした。

翌日、職員で話し合い、ゴミ捨て場から物を持ってきてはいけないこと、また衛生的にも問題があることから、お別れをしてもらうこととなりました。

私がそのことを伝えて謝ると、A君は悲しくて泣き

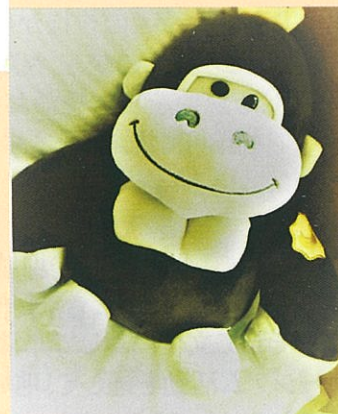
始めました。「ゴリラ君もA君がここに連れてきてくれてきっと喜んでいよ。いじめられたり、雨に濡れないようにしてゴミ屋さんに返そうね」と話すと、A君はしばらくして納得してくれました。その後、別れを惜しんで何度も「もう1回!」とゴリラ君を抱きしめ、最後は私と一緒にビニール袋に入れました。その後A君は部屋でしばらく一人で悲しそうにしていました。その日の夜「もう悲しくなるからゴリラの話はしないでね」と、自ら心の整理をしたのか、私に話しかけてくれました。その後も、ゴリラを思い出して涙を見せる日があり、一生懸命心の中に封をしているのかもしれないと思いました。

私たちは、A君の思いに応えたいと考え、6月半ばのある朝、枕元に季節外れのサンタさんのプレゼントとして、小さい新品のゴリラのぬいぐるみを置くことにしました。そして、今回の出来事は、私たちへの季節外れのサンタからのプレゼントになりました。



洗濯機に入りきらなかった  
ゴリラ君

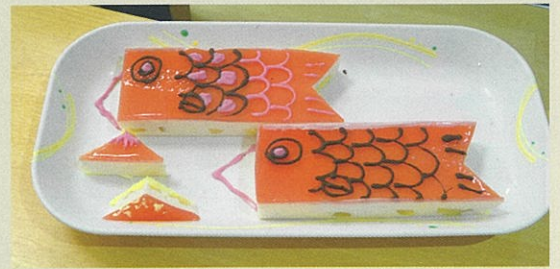
サンタさんからのプレゼント



# 令和を迎える

平成が終わり、令和の時代がやってきました。今年は、新時代を迎えるべく、長い連休がありましたね。みなさん、どのように過ごしましたか？

きらりの子どもたちが、この特別な時間をどんな風に過ごしていたのか、ご紹介します。



こいのぼりのスペシャルケーキ

## 子ども第一課 みらい



“みらい”の子どもたちは、普段よりも少しだけ特別なことをして過ごしました。

まずはこどもの日！玄関には五月人形、お庭にはこいのぼりを飾りつけしました。子どもたちは、毎日お空を泳ぐこいのぼりを見つけては喜んでいました。しょうぶ湯に入った後は、ケーキをこいのぼりの



そらまめ、むけたよ

様に飾りつけ、みんなでおいしくいただきました。別の日には、職員と一緒に炊いたご飯でおにぎりを作ったり、茹でたそら豆の皮むきをするなど、ちょっぴり調理することも体験しました。また、招待をいただいたアンパンマンミュージアムも行くことができました。大好きなアンパンマン達に会えて、笑顔いっぱいの楽しい思い出ができました。

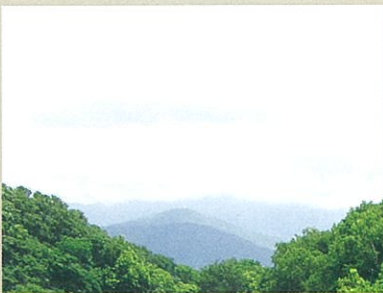
## 子ども第二課 ひばり



“ひばり”の子どもたちは、ゴールデンウィーク中に催された片岡神社のお祭りに参加する機会がありました。迫力のあるお神輿を間近で見ると満足し、出店では、自分のお財布と相談をしながら、上手にやりくり。かき氷に自分で選んだシロップをブレンド出来た事が楽しかったようで、互いに好みの色に染まった舌を見ては大笑い、はしゃぐ姿が印象的でした。令和初のゴールデンウィークは10日間ありましたが、ボランティアさんの協力もいただき、お出掛けやドライブを楽しむ等、いつも通りの、のんびりとした連休を過ごしました。



## 子ども第三課 ぎんが



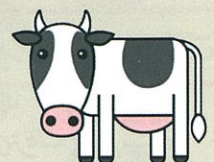
車窓から眺めた丹沢の山々

“ぎんが”の子どもたちは、ドライブに3回行きました。

第1回目は、伊勢原市内の牧場に行きました。牛を見て皆でソフトクリームを食べた後、スズメの巣を見つけたり、カエルを捕まえたりしました。

第2回目は宮ヶ瀬湖に行きました。雨のため散策は出来ず車内から景色を楽しみました。窓から野生の猿を見つけたり、みんなで大好きな歌をうたったりとほっこりした時間を過ごしました。

第3回目は、秦野中央公園に行きました。またも大雨が降ってきてしまいドライブのみになってしまいました。残念…外で遊びたかった。GWは雨の日が多かったけど、みんなで楽しい令和を迎えました。



# きらり リレートーク 3

医務課看護係長 佐藤 千治

## 健康にダンス！



「子どもたちに新鮮な空気が入り、明るく陽当たりよく広々とした教室と涼しい寝室を与え、戸外でたっぷりと運動をさせよう。あくまで自由に、子ども自身の考えに任せて、指示はせずにとっぷりと楽しませあそばせよう。もっと子どもに開放と自由を与え、授業や詰込み勉強や強制や訓練はもっと減らそう。もっと食べ物に気を使い、薬に気を使うのはほどほどにしよう。そうすればより良い健康は保てることわがわがわかるであろう。」これはナイチンゲールの「看護覚書」からの一部引用です。そんな子どもたちの健康を担う医務課が主催しているダンスクラブは、一課の赤ちゃんはじめ二課、三課みんなが参加できる余暇活動です。ズンバの先生は月一回ダンスやゲームを、プロのダンサーが来てくれた今年のきらり祭のダンスイベントは、最初はバラバラでしたが最後は一気に集中して盛り上がる一体感が圧巻でした。子どもたちは振り付けをよく覚えて、自分の表現で自由に動きます。ダンスが苦手で見ただけでも途中で抜けるのも、自由にOKです。医務課も子どもたち全員が、できるだけのびのびと健康に生きる力とつながる力を育むお手伝いができるといいと思っています。



## きらりんびっく開催！



長い長い夏休み、水泳部の活動は元気いっぱい！そんな水泳部の活動内容を報告します。練習は週に2日、午後3時から1時間ほどの練習を男女とも10回以上行いました。泳力はそれぞれですが、練習にかかる意気込みは十分。クロール、平泳ぎ、ビート板など様々な種目に熱心に取り組みました。

昨年度は目標にしていた神奈川県児童施設の水泳大会が会場の都合で直前に中止となりましたが、その代わりに「きらり水泳大会(きらりんびっく)」を開催し、きらり中の職員、分校の先生が応援に駆けつけてくれた中で大いに盛り上がりました。そして今年度は待ちに待った水泳大会に向けてそれぞれが一生懸命に頑張り、昨年以上に燃えてくれました。来年の水泳部も楽しみです。

めざせTOKYOオリンピック！



子ども第三課  
小暮 毅



## ボランティア募集



行事等のお手伝いや、学習補助、衣類の補修等のボランティア活動をしていただける方を募集しています。特に地域の学校へ通っている子どもたちの通学に付き添っていただける方を探しております。資格や経験は問いません。ご興味のある方はお気軽に下記までご連絡ください。

## 短期入所サービス

当センターでは年齢が18歳までの知的障害のある方を対象に、短期入所サービスを提供しています。ご利用を希望される方は、下記連絡先までご連絡ください。

## 施設開放

地域におけるコミュニティ作りや文化活動に貢献できるよう、当センターの体育館などの貸し出しを行っています。ご利用を希望される方は、施設開放事業担当者まで、お問い合わせください。

## 研修案内

子どもの発達や、発達障害、愛着の問題など、「きらり」が支援する子どもに関するテーマについて、公開研修を企画開催しています。最新情報や内容・日程については、当センターホームページ内「子ども自立生活支援センター公開専門研修計画」を、ご参照ください。

ご寄付やボランティアのご協力ありがとうございます。子どもたちもとても喜んでいきます。

問合せ先： 0463-56-0314 当センター自立支援課（平日8:30~17:15）または、ホームページの「お問い合わせフォーム」より

